

# 序 文

富岡製糸場では、現在、国宝西置繭所と乾燥場、そして2棟の社宅について、保存整備のための工事を進めています。このほかにも、煙突の保存事業や敷地南の崖面の崩落対策工事、また、場内全体の防災対策の設計も進めており、世界遺産そして国宝・重要文化財、史跡である富岡製糸場の価値と魅力を、損ねることなく後世に伝えるための事業を進めています。

文化財としての価値を残して保存修理するためには、まず、その価値について、よく知らなければなりません。そのためには、富岡製糸場について、様々な側面から調査研究を継続して行い、情報・知識を蓄積していく必要があります。この活動は、富岡製糸場についての展示解説を行う上でも大事なことです。

当市では、平成20年度に富岡製糸場総合研究センターを立ち上げ、富岡製糸場に関する総合的な調査研究を開始しました。文字通り「総合的」に、富岡製糸場に関する様々な側面について、着実に調査活動を続けています。

この度、平成28年度の調査研究活動の成果の一端を報告書としてまとめました。富岡製糸場の価値と魅力を伝える情報発信の一助となることを祈念して、序文といたします。

平成29年3月

富岡市長 岩井賢太郎